

## 1. はじめに

本年度の研究は、「本校の教育計画全体を整備していこう」ということが、取り組みの基盤となっている。そのことは、「たとえ素晴らしい実践がごろごろしていても、たとえば学校全体としてそれを効率的にしていくには、どのようなことが必要か」という本校における今までの実践状態からの課題意識としてとらえたい。言いかえれば、「ひとつひとつの実践を本校の教育計画の全体的見通しの中に有機的に位置づけること、それによってそれぞれの実践が方向性と力動性をもってくる」のではないか、また実践を進める上でなされる討議が全体的な見通しの上でなされ、その見通しの上に効率的に深められるのではないか、ということであり、指導体制の面から見れば、教育計画を討議していく単位が学級、学部単位から学校単位へと広げられていくのではないか、ということである。

そのための大まかな見通しとして、次の二つの観点を提案した。

- (1) 本校の教育活動が「めざしていること」を「すじみちを立てて」、「具体的資料」にもとずいてお互いが理解のできるように整理していく。
- (2) まず「学校教育」という視点のもとに、小、中、高（9＋3ケ年）という「教育期間」を前提として、本校の「教育条件」の整備を進める。56年度はその「スタートラインづくり」にあたり、「領域・教科を合わせた指導」から整備をする。

いずれにしても、本校創立4ケ年を経た今の時期に、今までの実践をふまえ、今後の教育計画のよりよい方向を模索しようということが根本的課題である。その上に立って「2」で述べるような具体的な研究実践に取り組んでみた。

## 2. 56年度の具体的な取り組み

- ① 53, 54, 55年度の取り組みの整理（別資料）

- ② 56年度研究主題

－ 日生、生単、作業、遊びにおける小、中、高の関連性について －

（設定理由）

53年度以来3年間、「本校の児童、生徒の実態に応じた教育課程の編成と実践」の主題のもとに研究を積み重ねてきた。54, 55年度は「社会生活能力の向上、育成」に観点をしぼった。その中で、教育課程編成上の根本的な課題である小、中、高の一貫性は、常に叫ばれながらも実際としては学部内にとどまっている。

それは、それぞれの担当であるその時の各学部の児童、生徒の実態の範囲内での実践、研究へ努力が集中した当然の結果として、児童、生徒の学年の年次進行に伴う学部の対応は（それまでの実践の成果はふまえるが）その学部内での試行錯誤的対応の域を出ていない状態をもたらしている。

こういう時期に小、中、高の一貫性とは子どもたちにとって、また私たちにとってどういうことを意味するのか、今まで各学部でそれぞれ積み重ねてきた「領域・教科を合わせた指導」の分野（日生、生単、作業、遊び（全体学習））の実践をもとに整理したい。

- ③ 56研でどのようなことが整理されてくるか（「具体的資料」として）

ア．本校における教育計画の基本的な考え方

イ．本校における「領域・教科を合わせた指導」についての共通的な考え方

ウ．子どもの（社会的な）状態像を把握していく資料と、指導内容評価表としての「内容表」の作成（「領域・教科を合わせた指導」の分野で）

エ．「内容表」に基づく状態像のは握と57年度の指導内容（「領域・教科を合わせた指導」の分野で）の選定

- ④ 研究日程と研究組織（別資料）

- ⑤ 56研までの全体概要図（別資料）

- ⑥ 56研によって整理された具体的な資料

③－アより 本校における教育計画の基本的な考え方についての一資料（資料1）

③－イより 遊び、日生、生単、作業の各指導形態についての共通的な考え方（各中心テーマの確認について）（資料2, 3, 4, 5）

③－ウより 各領域毎の内容表（指導内容要素表1）

「なんのために」、「どのようなことを」に視点を置き、今までの教育実践の中心的な位置を占めてきた「領域・教科を合わせた指導（日生、生単、作業、（遊び））」について、本校においての中心的テーマと全体的内容をあらい出しを見た。

それは、個人を一個の統一体としてとらえ、統一体としてのひとつの子どもの生活力に關した指導内容全体として考えられる。それは、あくまで私たちの側からの「こうあってほしい」という要請（願望）の立場によるものであるが、そこからとらえられてくる社会的行動におけるその状態像は、どのようなことに起因するのか、という一個の統一体を分析的に見ていこうという方向が出せるまでには至っていない。そこから、社会的行動における状態像としての実態と、「どのようにして」のひとつの方向を探ってみたい。

： 各領域毎の内容を整理・統合した内容表（指導内容要素表Ⅱ）

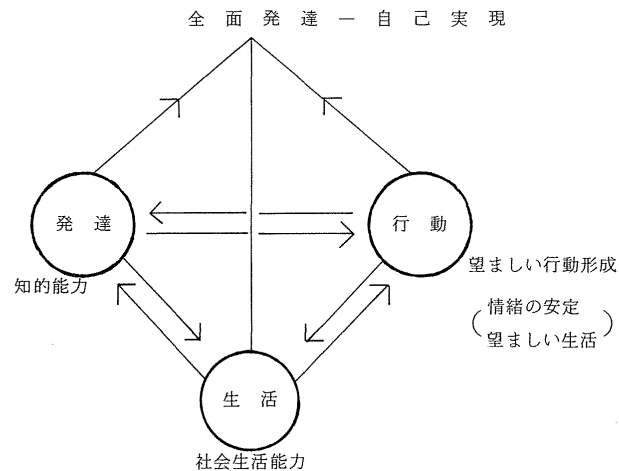
個人を、統一的、分析的の両面でとらえていくことによって、はじめて、子どもの必要に、より密着した効率的な指導が、展開されてくると考えられる。故に各領域毎の指導内容要素を整理・統合していくことによって、統一体を分析的にみていく方向が必要となってくるが、日程のつごう上、57研以降の課題となる。

③－エより 日程の都合上、次年度の課題として残る。

## ○ 障害児教育の基本的視点

- (1) 生理学的教育 → A 発達の原理  
 (2) 教科主義的教育 → A 発達の原理  
 (3) 生活主義教育 → B 生活の原理  
 (4) 職業教育 → B 生活の原理  
 (5) 行動教育 → C 行動の原理

### ・精神薄弱児教育の目標



### ・総合学習の基本的考え方

- a) 人間を統一体として把握する  
 b) 総合的学習と分析的学習の関連性  
 c) 遊び、日生、生単、作業、指導形態の中心  
 テーマの確認と相互補助関係を認識する。

※ 各グループより、実際に提出された内容表にもとずいて、  
 B生活面の指導内容項目を再考したものである。

## ○ 教育課程の編成と指導形態

(資料1)

指 導 内 容	指 導 形 態						備 考
	遊 び	日 生	生 単	作 業	教 科	養・訓	
A 発達面	運動機能（基本的運動パターン）	◎				◎	{ ◎ 中心テーマ ○ 関連テーマ
	感覚機能	◎				◎	
	知覚・認知機能	◎				○	
	ことばコミュニケーション	◎		○	○	○	
	概念（教科前学習）			○	○		
	教科学習			○	◎		
B 生活面	生命の維持（健康・安全）		◎				
	身の自立		◎				
	基本的な日常生活の習慣の確立		◎	○			
	集団への参加	○	○	◎			
	家庭生活に関する知識・技能・態度			◎	○	○	
	社会生活 " "			◎	○	○	
C 行動面	職業生活 " "				◎	○	
	情緒の安定	◎					
	問題行動の改善	◎				◎	
(D)	望ましい行動形成		○	○			
	言語治療						
※ B 生活面	機能訓練						
	基本的生活習慣の確立		○	○			食事・衣服・排泄・清潔
	健康保持と安全生活		○	○	○		健康・病気とけが・衛生
	集団への参加	○	○	○			きまり・役割・仲間づくり・遊び
	学校生活への適応		○	○			学校における日常生活指導の内容（整理整頓、あいさつ等）
	自然事象の認識と処理			○	○	○	自然・時間
	家庭生活に関する知識と技能			○	○	○	家庭・手伝い・家事
	社会生活に関する理解と経験			○	○	○	金銭・社会のしくみ 公共施設の利用
	職業生活に関する知識・技能・態度				○	○	仕事へのとりくみ・作業の仕方 道具

※ B生活面に関する内容表の項目群（研促委試案）

グループ 項目	日	生	生	単	作	業	遊	び
基本的生活習慣の確立	1. 食事（配膳－配膳，後片づけを除く） 2. 衣服（繕い，洗たくを除く） 3. 排泄 4. 清潔				1. 作業のしかた（服装）			
健康保持と安全生活	7. 健康		7. きまり（日上生活上の約束）					
集団への参加			5. 役割（役割） 7. きまり（集団行動上の約束）		1. 仕事へのとりくみ（9.集合時間）		2. ことば 3. 集団への参加 4. 生命力－生き生き・のびのびと	
学校生活への適応	6. 整理・整とん		4. 交際 5. 役割（係活動） 6. 手伝い・仕事（学校での手伝い） 10. 社会のしくみ（身近な人－6.7.8.9.10.11.12） 行事・祝祭日－2		2. 対人関係（①－①，②－①あいさつ）			
自然事象の認識と処理			9. 自然（道具や機械－5.6.7.8を除く） 12. 時間					
家庭生活に関する知識と技能	1. 食事（配膳－配膳，後片づけ） 2. 衣服（繕い，洗たく） 5. 清掃		6. 手伝い・仕事（衣服，食事，住まい） 対応，掃除，後片づけ 10. 社会のしくみ（身近な人－1.2.3.4.5.12） いろいろな職業－1.2.3.4		1. 作業のしかた（そうじ）			
社会生活に関する理解と経験			7. きまり（交通ルール） 8. 金銭 10. 社会のしくみ（いろいろな職業－5～11） 所在地 行事・祝祭日－2以外 社会のできごと 11. 公共施設の利用		2. 材料・生産物（㊦金額）			
職業生活に関する 知識・技能・態度			5. 役割（作業） 6. 手伝い・仕事（学校での仕事） 9. 自然（道具や機械－5.6.7.8.）		1. 作業のしかた（服装・そうじを除く） 2. 材料・生産物（(4)計算を除く） 3. 用具 ..... 1. 仕事へのとりくみ 2. 対人関係 ..... 1. 移動 2. 固定 3. 分解 4. 組立て		※ 1. 運動機能 5. 遊具とのかかわり	

※ 2. 材料・生産物（(4)計算）

## ○ 遊びについて

### ＜遊びを どうとらえたか＞

遊びは、総合的な指導形態をとり、その指導のねらいは、多岐に亘る。児童・生徒は、遊びの中で、心身両面にわたって、さまざまな能力を発達させると共に、活動を通して、人間としての力を身につけさせ将来の社会生活に必要な人間関係の基礎を培うものである。

遊びの指導にあたっては、児童、生徒の実態に応じて、遊べない子を遊べるようにしたり、遊びそのものに没頭させたり、遊びを創造させたりする。

遊びの指導の時間は、特設した「遊びの時間」の中で行うことを中心とするが、「養護・訓練」とは、連携を深めながら、指導をする。さらに、「日常生活の指導」「教科指導（特に、音楽・図工（美術）・体育）」の中でも、遊びをとりあげて指導する場合も考えられる。

### ＜遊び指導のねらい＞

1. 児童・生徒の のぞましい心身の発達を促進させる
2. 児童・生徒の 社会性の発達をうながし、好ましい人間関係の基礎を育てる
3. 児童・生徒の情緒の安定をはかり、諸障害の改善をうながす

### ＜項目設定の趣旨＞

遊びにおける子どもの具体的状態像を観察し、それをもとに、今後の指導の方針を考えるために段階を一覧表にし、各学年毎に評価をすることにした。

項目の選定にあたっては、

1. 遊び指導のねらいに即したもの
2. 学校生活の中で、日常観察されるもの
3. 子どもの様子を だれでも具体的に観察し、評価できるもの

以上の視点から、多様で広範な遊びの中の子どもの状態を観察する項目を五つに選定した。

- 遊びの中での子どもの動きをみる ————— 1.運動機能
- 遊びの過程で発せられる「はなしことば」をみる — 2.ことば（コミュニケーション）
- 個から「社会化」への発達の状況をみる ————— 3.集団への参加
- 遊びに参加している時の心の状態（内面）をみる — 4.生命力
- 具体的な遊びの中での子どもの状態をみる ————— 5.資料

資料として、全体学習（小学部）の実践と中・高等部の遊びの分類を掲載した。

（資料2）

### ＜項目一覧表＞

<p>1.運動機能</p> <p>(1) 立つまでの動き</p> <p>(2) 足の動き (歩く・走る・跳ぶ・ける)</p> <p>(3) 手の動き (握る・投げる・受ける・打つ)</p> <p>(4) 体幹の動き (のぼる・おりる・ころがる・つりさがる)</p>	<p>4.生命力</p> <p>— 生き生きのびのびと —</p> <p>(1) 創造性</p> <p>(2) 活動性</p>
<p>2.ことば（コミュニケーション）</p> <p>(1) 発 語</p> <p>(2) ことばの理解</p> <p>(3) 意思の疎通 (受けこたえ・意志の表出・実践遂行)</p>	<p>資料 1. 遊具とのかかわり</p> <p>(1) 固定施設 (すべり台・ブランコ・ジャングルジム 遊動円本・鉄棒・雲梯)</p> <p>(2) 視聴覚教具 (絵本・テレビ・カセット・リズム楽器)</p> <p>(3) 造形 (積木・粘土・折り紙・絵の具・ハサミ)</p> <p>(4) 乗物 (三輪車・スケート・自転車)</p> <p>(5) その他 (水・砂・ボール・人形)</p>
<p>3.集団への参加</p> <p>(1) 人とのかかわり</p> <p>(2) やくそく (ルール・判定・感情・順番交代・じゃんけん)</p> <p>(3) やくわり</p>	<p>資料 2. 全体学習で取り組んだ遊びのまとめ</p> <p>資料 3. 中高等の遊びの分類</p>

### ＜これからの課題＞

- 遊びの状態を、具体的に観察しやすい項目を抽出し、段階表を作成したが、項目 1.運動機能や項目 2.ことば（コミュニケーション）では、「養護・訓練」との関連が深い。そこで、感覚機能の状況や知覚認知の程度などについては、「養護・訓練」のカリキュラム作成と並行して、今後、検討する必要がある。
- 全体学習で、一斉に指導をしているが、今後は、能力別（障害別）などのグループ指導も検討されるであろうし、中、高等部では、「遊びの時間」の特設など、遊びについての論議も必要になってくるであろう。

## ○ 日常生活の指導について

私たちは、日常生活の指導を、“一人ひとりの児童・生徒の発達の状況や、能力・特性を十分ふまえた基本的な生活態度や習慣を身につけさせるために、日常生活にとって特に必要性の高い内容を、一日の自然な生活の流れにそった実際の活動を通して学習させる総合的な指導形態である。”と考えている。

そして、実際の指導にあたっては、小・中・高のそれぞれの児童・生徒の発達段階に応じて、焦点化した目標や内容が考えられるが、一貫した基本姿勢として、“個人がその生活の確立を図りながら、他とのかかわり方を学びとってゆく。”という見方に立ち、“個人生活の確立”を中心に指導内容を配列していくことにした。

### ＜目 標＞

- ・ 身近生活の基本的習慣を確立する。
- ・ 健康保持と安全生活の態度・習慣を身につけさせる。
- ・ 日常生活に必要な対人的態度を育てる。

### ＜指導内容（項目群）＞

- |        |         |             |
|--------|---------|-------------|
| 1. 食 事 | 5. 清 掃  | 9. あいさつと対応  |
| 2. 衣 服 | 6. 整理整頓 | 10. き ま り   |
| 3. 排 泄 | 7. 健 康  | 11. 公共施設の利用 |
| 4. 清 潔 | 8. 安 全  | 12. 係・当番の仕事 |

（資料3）

本年度は、まず、児童・生徒の具体的な生活実践のための基礎能力とも言うべき身近生活の処理を中心に、私たちの実践を見直すことにし、“1. 食事～7. 健康”について、指導内容段階表試案を作成した。

### ＜指導内容段階表試案作成の際の基本的姿勢＞

私たちは、“目の前に、子どもたちの実態から出発しよう、子どもたちの具体的な行動に学ぼう。”を合言葉に、児童・生徒の具体的な行動状態や様子を記述することを中心に、今までやってきたことを指導内容（項目群）ごとに出し合い、整理することから始めた。そして、それを小項目、細項目としてまとめ、整理したが、小項目、細項目設定の際の基本的考え方として、一連の流れを目的行動として、それを達成するのに必要な分節動作を考えて設定していくようにした。

### ＜段階設定の際の基本的考え方＞

5段階を基本に考え、5段階で児童・生徒の実態や指導要素等が具体的に表すのが無理な場合は、それぞれの段階で、a、b、cの細段階を設けた。（1部3段階にしている細項目もある。）

1. 指導者といっしょにする。指導者にしてもらう。
2. 指示や手助けを受けながら……。
3. 自分でしようとするがまちがいの多い。
4. 自分のことを、だいたい自分でできる。
5. 自分のことを自分できちんとできる。

## ○ 生活単元学習について

生活単元学習とは、生活経験を広げ、集団生活への参加能力を育てるために、児童・生徒の興味・関心に結びついた具体的で現実度の高い生活課題を共通の学習素材として能力に応じて学習する総合的な指導形態である。

指導にあたっては、教科との関連を次のように考える。

- 集団生活に必要な知識・技能を身につけさせるものである。
- 種々の実際の経験を伴った総合的な力を身につけさせるものである。

### <ねらい>

- (1) 生活経験を広げ、より確実にさせる。
- (2) 集団生活への参加能力を育て、高める。

### <中項目について>

- (1) 基本的な日常生活の習慣の確立
- (2) 集団への参加
- (3) 家庭生活に関する知識・技能・態度
- (4) 社会生活に関する知識・技能・態度

※小項目、細項目については、別表にあげる。

### <内容表作成にあたって>

#### (1) 考慮した点

- 本校の児童・生徒の実態を考慮する。
- 単元を設定して内容表を考える。
- 社会性の発達を考慮する。
- 知識面の発達を考慮する。

#### (2) 評価における段階について

1. 常時、全ての面で援助が必要
2. 常時、多くの面で援助が必要
3. 時々、又は一時的に、あるいは一部援助が必要
4. 点検、注意などの配慮が必要
5. 点検、注意などの配慮もほとんど必要ない

### <今後の課題>

- 小項目において 1.基本的生活習慣 2.健康・安全、 3.遊びについては、内容表は作っていない
- 生活単元学習と他の学習との関連をどのように考えるか
  - ・ 日常生活の指導
  - ・ 教科学習
  - ・ 遊 び
  - ・ 作業学習

小 項 目	細 項 目
1. 基本的な生活習慣	食 事
	排 泄
	睡眠・起床
	身だしなみ
	清 潔
	入 浴
	整理・整とん
	衣服の着脱
2. 健 康 ・ 安 全	健 康 診 断
	安全な日常生活
	病気・けがの処置
	歩き方（横断）
	生 理
	避 難 訓 練
3. 遊 び	勝 ち 負 け
	後 始 末
	ルール（約束）
4. 交 際	所 属
	あ い さ つ
	参 加
	伝 達
	思いやり（礼儀）
	約 束
5. 役 割	役 割
	係 活 動
	作 業
6. 手 伝 い ・ 仕 事	手伝い・仕事の基本
	衣 服
	食 事
	住 ま い
	応 対
	後 片 付 け
	掃 除
	整理・整とん

小 項 目	細 項 目
7. き ま り	日常生活上の約束
	集団行動上の約束
	交通ルール
8. 金 銭	買 い 物
	お 金
9. 自 然	植 物
	動 物
	気 象
	天 体
	季 節
	地 勢（山・川・海）
10. 社 会 の し く み	道具や機械
	身 近 な 人
	いろいろな職業
	所 在 地
	行事・祝祭日
11. 公 共 施 設 の 利 用	社会のできごと
	乗 り 物
	公園・遊園地
	学 校
	郵 便
	電 話
12. 時 間	交 番
	日常生活の時間
	時 計
	暦

## ○ 作業学習について

作業学習とは、「望ましい職業人ないし社会人の育成をめざし、作業活動を中心とする実地的な経験をとおして、課題解決の能力を伸ばし、自主的な生活に必要な事からを学習させようとする総合的な学習形態である。」

### ＜ねらい＞

- (1) 職業生活および家庭生活に必要な基礎的知識を習得させる。
- (2) 身体諸機能の発達を図るとともに、基礎的な技能を育成する。
- (3) 勤務を重んずる態度を養うとともに、進んで社会生活に参加していく能力を養う。

### ＜内容表の作成にあたって＞

- (1) 大項目は、(資料1)の「職業生活に関する知識・技能・態度」を次の3項目に

Ⅰ 職業生活に関する知識・理解

Ⅱ 〃 〃 〃 に関する態度

Ⅲ 〃 〃 〃 に関する技能（作業技能の要素分析）

※項目一覧表については、別表にあげる。

- (2) 考慮した点について

- ① 本校児童・生徒の実態を考慮する。
- ② 小・中・高の一貫性を考慮する。
- ③ 全作業種目に適用できるように考慮する。
- ④ 児童・生徒の重度化に対処できるよう考慮する。
- ⑤ 将来の職業生活への適応を考慮する。

- (3) 内容表の形式と評価の段階について

- ①「職業生活に関する知識・理解」については、理解の程度により5段階に、また「職業生活に関する態度」については、仕事をする態度が全くできていないものから、仕事に対する望ましい態度ができていものまでの5段階に分けて評価する形式をとった。
- ②「職業生活に関する技能」については、作業技能の要素分析の形式とし、たて軸を「どうする（操

(資料5-1)

作)」、よこ軸を「何を(材料)」、「どのようにみて(身体・物の認知)」、「何を使って(用具)」に分け、総合評価として、○、△、×で記入し、「できる」、「大体できる」、「できない」の3段階で表わすことにした。また、総合評価において、「できない」と「大体できる」については、分析評価ができるようにした。

- (4) 項目の設定について

- ① 別表の作業学習内容表項目一覧表の通り、項目を下位へ分けられるものは分け、分けられないものは分けないで、最下位(最終)項目を、それぞれ小項目止り、細項目止り、細々項目止りとし、1～5の評価段階(5段階評価)をつけた。
- ② 最初は、現在行っている6作業種目について、それぞれ知識・技能・態度について考えたが、あまりにも膨大な項目になるので、6種目(全種目)に共通して使えるように精選し統一した。
- ③ また、小・中・高どの学部にも使えるように配慮した。
- ④ 「知識・理解」、「態度」については、まだいろいろな内容や要素があるが、あまりにも多岐に亘るので、精選した。
- ⑤ 作業種目別用具表(主なものをあげているので、下記以外の用具もある。)

種 目	主 に 用 い る 作 業 用 具 ( 道 具 )
園 芸	鍬、スコップ、シャベル、鎌、鋏、巻尺、一輪車、自動秤、ひもなど
窯 業	叩き板(棒)、延べ棒、かきべら、ろくろ、かんな、石膏型など
印 刷	込みわく、ジャッキ、ハンドル、活字、インテル、込み物、印刷機
木 工	鋸、錐、やすり、かんな、金づち、木づち、糸鋸機、釘抜き、刷毛、金尺、定規、ドライバー、万力、金床、ペンチ、ドリル、はた金など
調 理	包丁、計量カップ、自動秤、上皿天秤、温度計、コンロ、炊飯器、裏ごし器、泡立器、しゃもじ、スプーン、玉じゃくし、ふきんなど
被 服	鋏、ミシン(電動、足踏)、くけ台、チャコ、ルーレット、ものさし、巻尺、かぎ針、縫い針、待針、型紙、刷毛、刺しゅう・染色用具など



## &lt;作業学習内容表項目一覧表(知識・理解、態度)&gt;

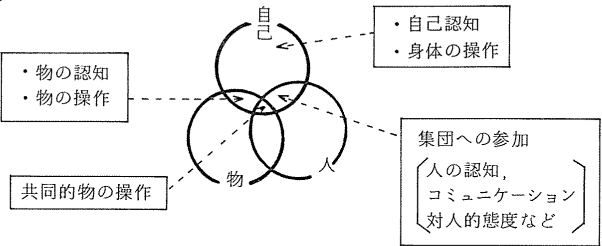
項 目					項 目				
大	中	小	細	細々	大	中	小	細	細々
大	I 職業生活にか 関する知識・理 解	1. 作 業	作業の目的		I 職業生活にか 関する知識・理 解	2. 生 産物 の で き ば え			
			作業の準備	服 装			名 称		
			作業の手順	材 料			用 途		
			作業の 後しまつ	用具			選 択		
				用具の手入れ			使 用 法	取 扱 い	
				用具の整頓				計 測	長 さ
				材料の整頓					重 さ
		2. 材 料	そうじ			I 職業生活にか 関する知識・理 解	2. 生 産物 の で き ば え		容 量
			作業の用語						
			作業の できばえ						
			名 称						
			特 性						
			材料の選択						
	II 職業生活に 関する態度	3. 計 算		加 法	II 職業生活に 関する態度	3. 仕 事 へ の と り か い	自 発 性		
				減 法			根 気 強 さ		
				剰 除			機 敏 さ		
							注 意 力		
							丁寧さ		
							安全衛生 への配慮		
		4. 仕 入 れ ・ 販 売				4. 仕 入 れ ・ 販 売	作業場面 への適切さ		
							責 任 感		
							集 合 時 刻		
							2. 指 導 者	挨拶	
							との関係	言葉づかい	
								指示に従う	
	III 職業生活に 関する態度	5. 仕 入 れ ・ 販 売			III 職業生活に 関する態度	5. 仕 入 れ ・ 販 売		質問・報告	
								挨拶	
								協 力	
								指 導 力	
								対 話	
	IV 職業生活に 関する態度	6. 仕 入 れ ・ 販 売				6. 仕 入 れ ・ 販 売			
	V 職業生活に 関する態度	7. 仕 入 れ ・ 販 売				7. 仕 入 れ ・ 販 売			

## &lt;「職業生活に関する技能」についての考え方&gt;

一作業学習における自己・人・物の関わり方と作業技能の要素一

○「作業」を（自己）と（人）と（物）の三者の関わりの中で発展していくものとしてとらえたとき、「技能」はその中で特に（自己）と（物）の関わりが強調される面としてとらえた。

○さらに、「技能」は、その中で特に（自己）と（人）と（物）の関わりの中で、図のようにとらえた。



○具体的な作業技能の要素として、次のように整理した。

材料(何)をどのように用具(何)を使ってどうする

○「どうする」の項目は、現在行われている作業を参考に出した。

さらに、「移動」、「固定」、「分解」、「組立て」という、4つの視点のもとに、それを精選したものである。

○「用具」の項目は、作業の種類により決まってくるので、具体的な名称は避けた。(作業プログラムを組むときに、具体的な名称を入れることを前提としている。)

○「材料」の項目は、物を「気体」、「液体」、「固体」に分けて整理した。この場合も具体的な物の名称は避けた。

○「どのように」の項目は、身体・物の認知のしかたについて、高知大学プラン等を参考にして整理したものである。